



「高校生食育アドバイザー」活動の様子▶

お腹が満たされたら
自然と笑顔になれる♪
食の学びは奥が深い
ですよ!



会長
内田 保代さん

荒尾市食生活改善 推進員協議会

食を通じ、健やかな 地域を育む

荒尾市食生活改善推進員協議会は、私達の健康は私達の手でをスローガンに、食を通じた健康づくりを推進するボランティア団体で、現在73人の会員が所属。これまで小学生の親子や高校生・男性・地域住民に調理実習を行ってきましたが、近年の感染症による不安で、会を辞めたいとの声も上がりました。「免疫力を高める食こそ大切にしたい」と活動を見直し、目的別のチーム体制を取り入れて再始動。時短レシピ作成チーム、高校生の食の関心を高める高校生チーム、イベントの企画を担当するイベントチーム、中学生の食の課題解決に取り組む中学生チームを編成すると、これまで以上に細やかでダイナミックに活動が広がっています。



ふおーちゅん サークルあらお



▲企業や農家から提供してもらい、食品ロス削減にも繋がります。

子ども食堂がコロナ禍で活動自粛が続くなか、フードパントリーという食料や物資を配布する活動が全国で広がりました。市内でも、感染症拡大の影響を受ける家庭への支援として、ボランティア団体「ふおーちゅんサークルあらお」がフードパントリーを開催。きっかけは、突如荒尾を襲った豪雨災害でした。それまでボランティア活動をしたことがなかった西山さん。「これは流石に見過ごせない！」と初めて参加し、そこでいただいた「ありが

とつ」の声に感動。災害による被害も落ち着いてきたころにフードパントリーを知り、個人でもできると知った西山さんはすぐに行動。試行錯誤をしながら準備を進め、仲間や地域の皆さんの協力もあり、実現できました。「想像以上の反響で来場者も喜んでくれました」と話す西山さんは、フォーチュン(幸運)と名付けたこの会で、今後も市民の皆さんに幸運を運びます。

▲12月24日のイベントではサンタも登場♪男女共同参画フォーラムにも参加しました▶



代表 西山 親也さん



▲梨の香りと味を生かした「梨スムージー」。隠し味は自家製の梨バタージャム♪



おおあちのり
大洲峰昇さん



ぶちスタンド

特産品を守りたい! 廃棄梨を活用して フードロスゼロを目指す

野原地区の県道208号線沿いにある大洲梨園の直売所のオシャレなバス「ぶちスタンド」。同園の4代目を担う大洲さんが「荒尾の特産品である梨の美味しさをスムージーを通じて広めたい」と始めた廃棄梨を使ったスムージーが話題のキッチンバスです。農園の仕事とキッチンバスの二足のわらじで活動する大洲さんが、社会人経験を経て挑戦へと舵を切ったのは、将来的に農園を継



ぐという強い思いがあったから。「温暖化の影響で、年々日焼けする梨は増えていきます。傷んだ部分を取り除けば、美味しさは変わらないのに捨てられてしまうのはもったいない。僕の目的は、あくまでも廃棄梨を生かすこと。多少の困難はあっても諦めるといって選択肢はありません」と大洲さんは揺るぎない想いを語ります。そう遠くない未来にカフェの実店舗を開き、地域に約100軒ある農園の廃棄梨の利活用に取り組みたいと話すが若き挑戦者の活動は、大洲梨園の梨のように大きな可能性を秘めています。

